

LS22

受験番号

2013 年度 甲南大学法科大学院入学試験問題

専門論文試験 民法・民事訴訟法

(120分)

受験についての注意

1. 試験開始の合図があるまで問題冊子を開いてはならない。
2. 問題は2ページまでである。印刷不鮮明、汚損等があれば申し出ること。
3. 解答用紙は1枚である。解答用紙には裏面もあるので注意すること。
4. 解答は、該当する科目の解答用紙を使用すること。解答用紙を誤った場合、その答案は無効となる。
5. 解答用紙は、横書きとする。
6. 解答用紙は、黒ボールペンまたは黒インクの万年筆で記入すること。これら以外で記入された解答は、無効となる。
7. 解答を訂正するときは、訂正部分が数行にわたる場合は斜線で、1行の場合には横線で消して、分かりやすい場所書き直すこと。
8. 下書きには、問題冊子の余白を適宜利用すること。
9. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

専門論文試験 民法

【問題】 事例を読んで設問に答えなさい。

〔事例〕

Aは、個人で中古自動車の販売業を営んでいた。Aの従業員であるBは、Aの営業所に勤務していたが、Aの留守中、営業所に展示してあった中古自動車（本件自動車）につき、営業所を訪れた客であるCとの間で、Aの代理人として代金を200万円とする売買契約を締結した。この売買契約において、代金はCがその場で支払い、本件自動車の引渡しは、翌日にCの自宅に運送して引き渡すことが合意された。Bは、サラ金からの借金が多額に上っていたため、Cから受け取った200万円をその返済に充てる目的で本件自動車の売買契約を締結したものであった。Bは、その場でCから200万円を受け取り、そのまま行方不明となった。

〔設問〕

1. CがAに対して、本件自動車の引渡しを請求したところ、Aが、Bには自動車仕入れの代理権は授与していたが、自動車販売の代理権は授与していないと主張した場合、Cは、どのような法的主張をすることが考えられるか。
2. AがBに自動車販売の代理権を授与していた場合、Aは、どのような法的主張により、Cの本件自動車引渡請求を拒絶することが考えられるか。この場合、問題文の事実以外にどのような事実があれば、Aの主張は認められるか。
3. CがAに対し民法715条1項に基づく損害賠償請求をした場合、Aは、どのような法的主張により、この請求を拒絶することが考えられるか。この場合、問題文の事実以外にどのような事実があれば、Aの主張は認められるか。

専門論文試験 民事訴訟法

【問題】

以下の事例を読んで、下記設問に答えなさい。

〔事例〕

XはYに対して4000万円の貸金債権を有している。期日になってもYがいつこうに返済しようとならないので、調査をしたところ、Yのめぼしい財産としてはZに対する3000万円の売買代金債権しかないことが明らかになった。そこで、XはYに代位して3000万円の支払いを求める訴えをZに対して提起した。

この訴訟において、裁判所は、①XのYに対する貸金債権が4000万円存在する、②YのZに対する売買代金債権は、当初3000万円であったが、すでに1000万円弁済されている（1000万円の弁済についてはZが主張し、Xも争わなかった。）ので、2000万円存在すると認定し、Zに対して、Xへの2000万円の支払いを命じる判決を言い渡した。

〔設問〕 この判決がそのまま確定した場合、その効力がYに及ぶか否かについて、本件債権者代位訴訟の係属をYが知っていた場合と知らなかった場合とで結論が異なるか、説明しなさい。